

災害時の子どもに対する

“Bio-Psycho-Social” な中長期的留意点について

開催日時： 令和6年 **2月25日**(日) **16時~18時** 参加費：**無 料**

形態： **オンライン配信**(Zoom ミーティング) 定員：**300名**

対象： 医療従事者、心理士、保育士、学校関係者、行政関係者など
子どもを支援する全ての方

申込方法： 日本小児科学会ホームページ または QRコードからお申し込みください
(事前登録制)

申込締切： 令和6年2月22日(木)17時 ※定員になり次第締め切らせていただきます。



令和6年能登半島地震発災から約2か月が経過しました。これまでの、日本小児科学会としての災害対策活動の要約・発信とともに、今後発生しうる小児周産期的な災害対策の課題と対応原則についての知見を、子どもをとりまく多職種の方々と、市民のみなさまに向けて発信することを目的として企画しました。

16:00~16:05 開会挨拶

岡 明 (日本小児科学会会長/日本小児科学会災害対策本部長)

16:05~16:20 「スフィア基準」と「人道行動における子どもの保護の最低基準 (CPMS)」

堤 敦朗 (金沢大学融合研究域国際保健学 教授)

16:20~16:35 子どものための心理的応急処置 (Psychological First Aid; PFA) について

赤坂 美幸 (セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン精神保健・心理社会的支援エキスパート)

16:35~16:45 過去に学ぶ：東日本大震災での経験から

岬 美穂 (国立病院機構本部DMAT事務局)

16:45 ~ 16:55 休憩

16:55 ~ 17:10 災害後の子どもたちのための中長期的な対策 1：児童精神的側面から

福地 成 (東北医科薬科大学病院精神科 病院准教授)

17:10 ~ 17:25 災害後の子どもたちのための中長期的な対策 2：母子保健的側面から

吉田 穂波 (神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 教授)

17:25 ~ 17:35 発災後の「こども会議」設置とその後の活動状況

和田 泰三 (金沢大学医薬保健研究域医学系小児科学 教授)

17:35~17:55 総合討論

17:55~18:00 閉会挨拶

濱崎 考史 (日本小児科学会災害対策委員会担当理事)